

こいゆたか 「YR恋豊を栽培して」 ～茨城県での栽培事例

カルゲン会さしま
沼尻 寿一

当カルゲン会は茨城県の県西部、利根川沿いに位置し、大消費地である東京に近く、温暖な気候を活かし、一年を通して様々な野菜を生産出荷しています。

当会の発足の主旨は、土作りをとおして病害虫に強い作物を作ることを目標に掲げ、良質堆肥を中心として、微生物資材と微量要素を投入することで、土壌中の微生物バランスと塩基バランスを整え、病害虫に自然と抵抗できる丈夫な作物を栽培し、極力農薬に頼らない農業を目指しています。

現在会員数は53名で、生産面積は60haになります。その中で、キャベツは13ha生産しており、5月～7月、10月～翌年1月の年2作での収穫を行っています。

使用品種は、以前から良食味である「YR初美636」を取り入れ栽培してきましたが、雪印種苗(株)より、寒玉タイプの新品種「YR恋豊」を発表したと聞き、試作をおこないました。品種の導入にあたっては、当会の中では下記の条件があります。

1. 土作りを行っているが、以前より葉物中心の栽培を行っている為、連作障害、病気に強い品種である事
2. 農薬散布、収穫、箱詰め等の作業性が良い事
3. 在圃性がある事
4. 食味が良い事

これらの条件をクリアできる品種かどうか試作を行った結果、「YR恋豊」に関しては、

- ①茨城県の県西地区はハクサイの産地でもあり、パーティシリウム萎凋病の発生の可能性があることから、できるだけ抵抗性であるという点
- ②外葉が立性で農薬散布が非常に容易で通路等も確保でき、芯も柔らかく作業性が高い点
- ③後半に肥大していくタイプで、比較的后半の病気の被害が少なく在圃性が高いという点
- ④寒玉品種の中では食味が良かったという点

といったように、初年度より概ね良好な結果を残してくれました。



YR恋豊



YR初美636

今後も、今まで栽培している「YR初美636」と共に、「YR恋豊」に関しても、当会での品種構成の中のひとつとして取り入れ、消費者に喜んでいただけるようなキャベツを生産して行きたいと考えております。



YR恋豊圃場



組合員写真



出荷ダンボール